

平山郁夫シルクロード美術館 News

The Hirayama Ikuo

Silk Road Museum

News

No.27

2022年4月発行



平山郁夫《求法高僧東帰図》 1964年 181.0×366.9cm 平山郁夫美術館蔵 第6回現代日本美術展出品作

平山郁夫は、1959(昭和34)年、再興第44回院展において《仏教伝来》(佐久市立近代美術館蔵)を発表しました。当時は被爆の影響などから、肉体的にも精神的にも追い詰められた時期であり、ふとしたことから玄奘三蔵のイメージが頭に浮かび、画家は自身の救いや平安を求めて彼に託す思いで、この作品を描きました。そこには、玄奘三蔵がインドでの長い修行から自国の中国へと帰っていく場面であり、画題の通り、僧侶が白馬に乗りながら緑豊かな木々の中を通り抜けて帰路へ向かい、希望を持って仏教を伝えていく姿でもありました。この作品を発表したことによって、平山は画家としての転機を迎え、画題としても進む道が決まり、以降、「仏教」をはじめ、釈迦の生涯をベースにしながら実体験を反映させた「仏伝シリーズ」などを描いていくことになります。

本作の《求法高僧東帰図》は、そうした仏教に関する作品の中でも壮年期に描かれたものであり、平山は《仏教伝来》を描いた頃から玄奘三蔵をはじめとした高僧のみならず、仏教を伝えた者たちを描くことに使命を感じていました。そうして完成したのが本作であり、金色を背景に仏法を伝える僧侶たちが東へ帰って行く姿であります。《仏教伝来》と同様、幻想的な表現でありながら、先の作品とは異なり、明るさとは反対の重く緊張感のある作風となっています。画家は、こうした仏教を伝えた人々の思いを以下のように述べています。

「忘れてはならないのは、仏教が自然に伝播したのではなく、伝えた人たちがいたということである。…仏法をインドから中国に伝えた多くの人がいた。僧侶ばかりとは限らない。知的レベルは低く、教義の理解はほとんどゼロに近いのだが、仏に対する燃える心をもった人たちが、無意識のうちに仏教を広めていた、といった現象もあったに違いない。仏教は有名無名を取り混ぜた無数の人に負われて、長い旅をしてきたのである。」

平山郁夫「仏教伝来の跡をたどって」

(『平山郁夫全集 第4巻 仏教伝来II』講談社・1991年)より



平山郁夫シルクロード美術館
HIRAYAMA IKUO SILK ROAD MUSEUM

企画展 平山郁夫 仏教の来た道—前編—

2022年3月26日(土)～9月13日(火) ※会期中無休



《ガンダーラの遺跡》1983年



《敦煌石窟九層樓》2007年



《パーミアン大石仏を偲ぶ》2001年
平山郁夫美術館

日本画家・平山郁夫は、1959(昭和34)年、再興院展に出品した《仏教伝来》(佐久市立近代美術館蔵)が画業の転機となり、この作品をきっかけに仏教への関心を深め、特に釈迦を題材とした「仏伝シリーズ」を多く手がけてきました。そして、1968(昭和43)年から仏教をはじめとする日本文化の源流を

求め、仏教伝来の道であるシルクロードを旅し、平和を祈りながら終生描き続けました。本展では、平山がこれまでに描いてきた「仏伝シリーズ」に関する作品はじめ、長きにわたるシルクロードの旅の中で描いてきた仏教遺跡、特にガンダーラやバーミヤンなどの作品を中心に展示し、あわせて当地で信仰されてきた仏像などを当館のコレクションから紹介します。

※表紙の作品《求法高僧東帰図》も同展にて公開

「みのるコレクション」当館初公開



弥勒菩薩立像 3・4世紀
北杜市教育委員会蔵

北杜市教育委員会が所蔵する「みのるコレクション」の仏像シリーズを初公開します。日本のベッドメーカーである、フランスベッド株式会社の創業者・池田實(1920-1999)氏が収集された146点の美術品の一部は、これまで白州総合支所の一角で展示されていました。今回、そのコレクションの一部を当館で展示する機会を得、それを記念して、上記コレクションの中からガンダーラ仏を中心に展示します。

Information

- ◆会 期 2022年3月26日(土)～9月13日(火) ※会期中無休
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆観 覧 料 一般1200円／高・大学生800円／小・中学生無料
※障がい者手帳をお持ちの方無料、介護の方1名まで600円
※70歳以上の方、20名様以上の団体 各100円割引
- ◆主 催 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館
- ◆後 援 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会、朝日新聞甲府総局、山梨日日新聞社・山梨放送、読売新聞甲府支局、信濃毎日新聞社、ハケ岳ジャーナル、テレビ山梨、エフエム富士、エフエムハケ岳

他会場で見られる平山郁夫シルクロード美術館コレクション

- ◆沖縄県立博物館・美術館 「平山郁夫生誕90周年記念 悠久のシルクロード～古代エジプトから天平さらに現代に受け継がれる美仏まで」展
2022年4月5日(火)～5月8日(日) 内容:絵画13点、コレクション74点
- ◆パラミタミュージアム「平山郁夫」展(仮称)
2022年4月2日(土)～6月5日(日) 内容:絵画52点
- ◆石巻市博物館「平山郁夫が描いた「奥の細道」—松尾芭蕉がみた石巻—」展(仮称)
2022年5月20日(金)～6月26日(日) 予定 内容:絵画約6点
- ◆奈良県立万葉文化館「平山郁夫」展(仮称)
2022年7月16日(土)～8月28日(日) 予定 内容:絵画55点
- ◆岡山市立オリエント美術館「ヒンドゥーの神々の物語」展
2022年7月16日(土)～9月11日(日) 予定 内容:コレクション18点
- ◆平山郁夫美術館「平山郁夫」展(仮称)
2022年9月17日(土)～11月27日(日) 予定 内容:絵画約30点、コレクション約30点
- ◆古代オリエント博物館「ヒンドゥーの神々の物語」展
2022年9月23日(金・祝)～11月27日(日) 予定 内容:コレクション18点
- ◆佐世保市博物館 島瀬美術センター「平山郁夫」展(仮称)
2022年11月3日(木・祝)～12月25日(日) 予定 内容:絵画42点
- ◆横浜ユーラシア文化館「魅惑の陶器 ウズベキスタン」展(仮称)
2022年11月中旬～2023年2月中旬 予定 内容:コレクション約34点

平山と仏教の出会い

平山郁夫シルクロード美術館名誉館長
平山美知子

平山郁夫が仏教の絵を描くようになるきっかけは、父上の峰一様に思ひます。父上は東京に出て、早稲田大学で政治経済学を学ぶ様な秀才だったのです。その過程で仏教の尊さを知り、その方の勉強にのめり込んでいきました。卒業後、名古屋の毎日新聞社に就職していたのですが、平山ひさ乃と結婚が決まり瀬戸田に戻ってこられたのです。生口島の様な小さな島では、小学校と市役所くらいしか働く所はありません。父上は他に働きたい人がいると思ひ、どこにも就職しなかったのです。

初めて父上にお目にかかった時、父上は「私は一生一銭も稼がなかったのが自慢です。」と言われたのには驚きました。朝食後、法然寺や外の寺を廻ったり、何か困っている人を励ましたりするのが仕



平山郁夫《入涅槃幻想》1961年 東京国立近代美術館蔵



家族写真

事だと言われま
す。こんな父上
に育てられた平
山が仏教に関
わる絵を描くの
は自然なことと
思ひます。

平山は、吉
雄兄が東大法

学部を出られたので、自分も東大に向けて勉強していたのですが、東京美術学校彫金科教授の清水南山先生にすすめられ、美校を受験したといひます。1952(昭和27)年3月卒業。その最後のクラス会を代々木の松山家と頼みに来たのが平山との付き合いの始まりだったと思ひます。平山と私は、東京芸術大学の日本画科の副手に選ばれましたが、私は翌年に副手をやめ、前田先生の仲人で平山と結婚することが出来ました。

それからの平山は助手の仕事も多く、春秋の院展に出品する絵を描くのも大変でした。平山は、広島市の修道中学生の時(昭和20年15歳の時)学徒勤労動員で原爆に被爆していましたから苦しい日々であったと思ひますが、その当時中国の玄奘三蔵法師の「求法の旅」の本を読み、大いに励まされ「仏教伝来」を描き、院展に出品しました。平入選でしたが河北倫明先生に認められ、新聞に大いに慰められ、自分の描くべき方向を悟っ

たと思ひます。平山は松山家と親しくなり、1961(昭和36)年6月15日、松山の父の死の枕頭にいた事から「入涅槃幻想」を描き、平山が実際に世に認められたと思ひます。

1968(昭和43)年アフガニスタン・ソ連邦ウズベク共和国の取材は、仏教が通ったシルクロードの取材のはじめとなりました。私をどの旅にも連れていってくれたことを有難く思っています。



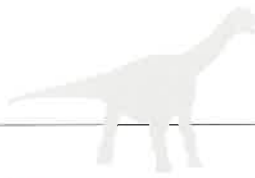
シルクロードへ旅するきっかけとなった法隆寺金堂壁画の模写



1968年アフガニスタン取材旅行

2021年 化石発掘体験報告

平山郁夫シルクロード美術館 理事長
平山 廉



恒例の夏休みイベントとして「化石発掘体験」が平山郁夫シルクロード美術館の2階野外ステージで実施されました。7月10日に始まり、8月3日まで延べ14日間にわたって開催され、参加者総数は1746名に達しました。1日平均して174名のお客さんが参加したことになります。

イベントの内容はこれまでとほぼ同じで以下の通りです。



ビニールシートに拡げた9千万年前の地層から化石を探しているところです。

1：ビニールシート(最多で5枚)の上に土嚢袋の中に入った地層を拡げて参加者に化石や琥珀を探してもらう。

2：見つけた化石は、講師である私や、入れ替わりで体験講師を務めていただいた鶴野光さんと渡部真人さん(早稲田大学招聘講師)、町田悠輔さん(愛媛大学)、および笹口新さん



講師の渡部真人さんが見つけた化石を鑑定しているところです。

(東京学芸大学)が鑑定。貴重であると判定された化石は「プレミア化石」として寄贈していただき、発見者の記念写真と共に館内に展示する。「プレミア化石」は後の貴重な研究資料となる。

というものです。これを

毎日10時30分、13時、1

5時スタートの3部に分けて発掘体験会を実施しました。見つけた「プレミア化石」は合計で227点にもなりました。ワニ、恐竜(竜脚類)、サメなどの歯、カメの甲羅、コプロライト(糞の化石)、虫入り琥珀、また「マユモドキ」と関係者から呼ばれている謎の化石などです。ほとんどの化石が日本では久慈市でしか見つからない貴重なものばかりです。参加者の皆さんは初め静かに集中して化石を探していますが、見つけた化石が「プレミア」と認定されると一気に場内のボルテージがヒートアップして、「プレミア化石」が続々と見つかるようになります。プレミア化石を見つけられなかったお客さんも琥珀や炭になった植物の化石などを見つけて満足していただいたようです。琥珀といえど



体験終了後は参加者全員で記念撮影(7月30日)。

も、日本では久慈でしか見つからない9000万年前の樹脂の化石であり、花粉など肉眼では見えない細かい化石や当時の空気の泡が中に閉じ込められた文字通りタイムカプセルなのです。

化石発掘体験が始まった2016年は参加者のほとんどが山梨県在住の方でしたが、2017年からはチラシなどの宣伝が行き届いてきたせいもあって長野県など山梨県外からの参加者も目立ってきました。コロナ禍のために夏休みが短縮され、イベントのほとんどが中止となってしまったこともあり、いつも以上に子供たちが熱心に化石を探していたのが印象的でした。これまで6度の化石発掘体験の参加者は1万名に達しています。

2022年の夏も化石発掘体験の第7弾を予定しています。7月9日に始まり、8月4日まで15日間の開催を予定しています。この夏も大発見をめざして平山郁夫シルクロード美術館に集まりましょう!



これは恐竜の歯です。巨大な植物食恐竜(竜脚類)のもので、歯は数センチの大きさですが、全長は20メートル近くあったと考えられます。



これはミツクリザメと呼ばれるサメの歯です。保存が良く、小さな突起(副咬頭)も残っています。サメの歯は43本が見つかりました。



レストラン垂絲花での慰労会。皆様お疲れさまでした(8月3日)。

HOKUTO
ART
PROGRAM

地域と連携したアート企画 「HOKUTO ART PROGRAM ed.1」開催

このたび、山梨県北杜市を舞台に、自然を活かした持続可能性、アートとは何かという問いをテーマに、アート、建築、映画、音楽、伝統文化、パフォーマンスアーツなど、多様なジャンルのアーティスト・クリエイターが参加するアートの祭典が開催されました。各会場では、この期間だけの特別展示、音楽LIVE、スペシャルツアー等が行われ、オンラインでの作品発表やトークイベントも開催されました。

◆期間：2021年10月30日(土)～12月12日(日)

◆主催：HOKUTO ART PROGRAM実行委員会

◆VENUE(会場)：清春芸術村、
中村キース・ヘリング美術館、平山郁夫シルクロード美術館、
女神の森 セントラルガーデン、身曾岐神社

◆総合ディレクター：吉井仁実(清春芸術村)

◆HOKUTO ART PROGRAM オフィシャルWEB SITE：
<https://www.hokutoartprogram.com/>



これに関連し、当館を会場に11月28日(日)の14時から、北杜市在住の音楽家・作曲家・ヴァイオリニストの波多野敦子氏によるライブが開催されました。5弦ヴィオラとエフェクターを用いて、重低音やノイズ、古典的なハーモニーを組み合わせ、ダイナミクスのある独自の音楽を演奏されました。

ARTS for the future! 事業実施の報告

新型コロナウイルスにより、文化芸術活動の自粛を余儀なくされた文化芸術関係団体において、感染対策を十分に実施した上で、積極的に公演等を開催し、文化芸術振興の幅広い担い手を巻き込みつつ、「新たな日常」ウィズコロナ時代における新しい文化芸術活動のイノベーションを図るとともに、活動の持続可能性の強化に資する取組を支援することを目的とした、文化庁「ARTS for the future!」の採択を受け、下記2つの事業を実施しました。

①視聴展示(Conceptual Sound Installation)の開催

期間：2021年12月18日(土)～12月27日(月)

会場：当館2階展示室6

②コンサート(奥村愛&山宮るり子 デュオ・リサイタル)の開催

日時：2021年12月26日(日)18時半開演(18時開場)

視聴展示は、美術館2階にある「大シルクロード・シリーズ」を展示している展示室6において、空間デザイナーでありコンセプターの四尾龍郎氏と、音楽家でサウンドデザイナーの黒瀧節也氏による視聴展示を実施しました。シルクロード各地の代表的な楽器の音階と音色を元に、複数のスピーカーから規則性を持たず発するサウンドを製作。この期間だけの特別な照明演出を施し、視界から感じるシルクロードの世界に音を空間反響で調和させる事で作品の世界観がより一層現実味を帯びてくる空間を表現。また、特別なスピーカーから発する音波が展示室のガラスや壁に反響することで、それぞれの音が混ざ

り合い、シルクロードでの交易によって様々な文化が混ざり合った様を表現。砂漠の砂丘の様に連なる景色のごとく音の大きさも時間によって変化させました。

コンサートは、同じく展示室6において開催し、閉館後のナイトミュージアムの側面も持ち合わせました。奏者には、国内外で活躍するヴァイオリンの奥村愛氏、ハープの山宮るり子氏をお招きして開催。当館として初めての試みとなる有料生配信を実施し、コロナ禍における密を避ける取り組みであると共に、遠方からの視聴を可能としました。平山絵画を背景に、展示室を暗くすると共に幻想的な雰囲気を出しました。お二人の演奏は18～19世紀にヨーロッパで作られた楽曲を中心に構成され、高原の岩清水のような透明感溢れる音色で、コロナ禍における席数削減の中、満員御礼となる約120名の参加者を魅了しました。また生配信では、演奏家のお顔や指の動きのアップを見ることができ、会場における参加とは別の魅力を提供できました。



◆第12回 シルクロード研究会の報告

立春を過ぎ、春の気配が徐々に感じられる2月12日(土)、鎌倉市二階堂の平山郁夫の画室・庫庵では、第12回シルクロード研究会が行われました。今回は、昨年の秋に開催され、当館も主催として関わった「みろく-終わりの彼方 弥勒の世界-」展(於:東京藝術大学大学美術館)を振り返り、専門家をお迎えして講演を行っていただきました。講師は、上記展覧会の目玉である、スーパークローン文化財・バーミヤンB窟天井壁画《青の弥勒》(以下、《青の弥勒》)の復元を手掛けられた、林樹里先生(東京藝術大学COI拠点 Arts&Science LAB 特任助手)で、《青の弥勒》の制作状況をはじめ、これまで東京藝術大学COI拠点が手掛けてきたクローン文化財のご紹介や、それらに関する秘話などをお聞きすることができました。当日は、講演で紹介されたクローン文化



林先生 クローン文化財の解説

財の中から、実物を4点ほど会場へお持ちになられたこともあり、それらを使いながら詳細な解説も行われ、参加者一同、クローン文化財に対する理解を深めることができました。また、林先生の講演後は、当館学芸部の前田たつひこより上記展覧会の内容をはじめ、展示で用いた当館のコレクション、特にガンダーラやアフガニスタンに関する弥勒菩薩像について、近年の学説も交えながらお話しさせていただきました。これら講演後は、参加者全員で、クローン文化財や弥勒菩薩像について語り合い、最後には一部の方々から同様の内容を「美術館でも開催して下さい!」という声も上がるほどで、大変充実した会となりました。

財の中から、実物を4点ほど会場へお持ちになられたこともあり、それらを使いながら詳細な解説も行われ、参加者一同、クローン文化財に対する理解を深めることができました。また、林先生の講演後は、当館学芸部の前田たつひこより上記展覧会の内容をはじめ、展示で用いた当館のコレクション、特にガンダーラやアフガニスタンに関する弥勒菩薩像について、近年の学説も交えながらお話しさせていただきました。これら講演後は、参加者全員で、クローン文化財や弥勒菩薩像について語り合い、最後には一部の方々から同様の内容を「美術館でも開催して下さい!」という声も上がるほどで、大変充実した会となりました。



林先生 講演の様子

なお、今回のシルクロード研究会についても、コロナ禍での開催ということもあり、新型コロナ感染症対策、特に人数制限をはじめ、マスクの着用・検温・消毒・アクリル板の設置など講じた上で開催しました。

中国巡回展の報告 中国における当館所蔵品展について(3)

平山郁夫シルクロード美術館 館長 平山 東子

昨年2021年の夏は、敦煌研究院主催の中国展の第2弾として、当館で所蔵するシルクロードのガラスコレクション展《琉光溢彩》が開催されました。当初、この展覧会は2020年に予定されていましたが、これもコロナの影響で、東京オリンピックと同様に一年延期となりました。とはいえ、2021年になってもコロナはおさまる気配もなく、春になっても、実現できるかどうか判らない状況だったのですが、もうこれ以上、引き延ばすことはできない、という敦煌研究院の羅副院长と黄山美術の陳建中社長の英断により、開催が決定されました。

しかし、この展覧会に出品するガラス器は、非常に古く、銀化によって傷んでいる作品も多く、作品だけを中国へ送るわけにはいきません。点検や展示作業のために、関係者も渡航しなくてはならないのですが、そのためにはチケットやビザの確保、隔離を含めて約1ヶ月の渡航など、越えなくてはならない数々の問題がありました。結局、当館からは前田さんと私、黄山美術社関係からは、陳社長と奥様の妻さん、彭さんの計5名で訪中することになりました。隔離生活のための大荷物をもとめ、成田から防護服の人たちに

囲まれて日本を出たのが7月13日、その日から西安で2週間、さらに敦煌で1週間、その間に6回のPCR検査を受け、食事は毎日大きなタッパーで大量に配給され、移動日以外は一步も外に出られず、どうにか3週間(正確には22日間)をやり過ごし、8月4日、ついに私たちは解放されました。いつもの北京鑑鐘文化社と迅捷珍品運輸(中国側の展示業者)の人たちが、隔離施設まで迎えに来てくれて約2年ぶりの再会を果たし、それから急ピッチで会場作りを進め、8月8日、無事、展覧会をスタートすることができました。北京からは日本大使館の志水公使が移動制限の厳しい中、開幕式にいらして下さり、敦煌研究院の新しい院長の蘇伯民先生や、監修者の羅慶華副院长も、こんな状況のなかで展覧会が実現できたことを非常に喜んで下さいました。本展は敦煌会場のあと、今年初めから5月まで北京の清華大学の芸術博物館で開催され、その後、西安や四川、深圳など中国数カ所を回る予定です。



到着日の深夜2時
隔離先の西安のホテルで



隔離食
1度に約20個もの
水餃子がタッパーに



展示作業



8月8日敦煌文化財センターで

○ワークショップ



恐竜ジオラマ作り体験

●開催日：7月24日(土)、25日(日)
●講師：宮沢叔恵 ●参加者：55名



恐竜全身復元模型

●開催日：8月14日(土)
●講師：徳川広和 ●参加者：10名

ティラノサウルス頭部復元模型制作

●開催日：8月15日(日)
●講師：徳川広和 ●参加者：6名



復元画ワークショップ

●開催日：8月22日(日)、23日(月)
●講師：小田隆 ●参加者：15名

○早野恵美「動物図鑑」展の開催

●期間：2021年9月18日(土)～10月31日(日)

●会場：当館2階展示室5、2階カフェ

文化庁による令和3年度文化芸術振興費補助金(文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業)を受け、地域に開かれた美術館を目指し、2階カフェに展示スペースのための壁面を制作しました。その第1弾の企画として、山梨県で活躍する現代日本画家・早野恵美さんの「動物図鑑」展を開催しました。

カラフルで幾何学的な模様に装飾された動物たちを描く早野さんの作品は、私たちが日ごろ思い浮かべる日本画の印象とは大きく異なっています。いくつかのパーツに分けられた板を何枚も重ねる手法で半立体になった作品は、影が生み出され、額に収まることなく動物たちは表情豊かに表現されています。また、作品に添えられた「豆知識」によって動物たちの新たな魅力が発見できる楽しい展覧会でした。また、2階や美術館の外壁には作品をその動物の原寸大に拡大したパネルを展示し、来場者の方々と一緒に写真を撮るなどして楽しんでいる様子でした。



○スクールプログラム

4月 16日 北杜立甲陵中学校 1年生 44名

(展覧会見学・絵手紙コンテスト参加)

5月 10日 北杜市立長坂中学校 1年生 54名(展覧会見学)

5月 12日 北杜市立小淵沢中学校 1年生 59名

(展覧会見学・絵手紙コンテスト参加)

5月 20日 北杜市立泉小学校 5・6年生 106名(展覧会見学)

5月 25日 北杜市立長坂小学校 3年生 62名(展覧会見学)

8月 10日 発達支援教室ライフ 25名(展覧会見学)

10月 25日 石和誠心幼稚園 年長児 23名(展覧会見学)

10月 20日 甲斐市立玉幡中学校 2年生 21名(展覧会見学)

11月 5日 山梨県立甲府支援中学部 3年生 5名(展覧会見学)

11月 19日 北杜市立白州小学校 5名

(展覧会見学・絵手紙コンテスト参加)

11月 17日 北杜市立高根中学校 1年生 83名(展覧会見学)

2022年上期 開館カレンダー

4 April						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5 May						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6 June						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7 July						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

8 August						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9 September						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

3/26～9/13 「平山郁夫 仏教の来た道-前編-」展
9/17～12/27 「平山郁夫 仏教の来た道-後編-」展

※9/14～16展示替えの為休館
※上記以外、4月～9月は休みなく開館
※冬季及び展示替え期間は休館

賛助会 だより

賛助会会員募集

賛助会は美術館の活動を支援するとともに、会員の皆様の交流をはかることを目的として発足いたしました。皆様から寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会・講座の開催、国際交流、美術館の維持管理などに使用されます。賛助会員にはさまざまな特典（詳しくは美術館HPをご覧ください）のほか、交歓会等イベントも予定しております。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

- ◆会費 個人会員…… 10,000 円
家族会員…… 15,000 円
法人会員…… 100,000 円

- ◆受付期間 随時受け付け（毎年7月に更新。12～3月までにご入会の方は初年度の年会費は半額、4～6月ご入会の方は翌年6月末日まで有効）。

- ◆申込方法 申込用紙に必要事項をご記入のうえ美術館にご郵送いただき、所定の銀行口座に会費をお振り込みください。申込用紙ご希望の方は、美術館HPからダウンロードするか、美術館にご請求ください。

お知らせ

館内全域に Wi-Fi を完備しました

文化庁による令和3年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）を受け、館内全域にWi-Fiを完備しました。ご来館の際はぜひご利用ください。また、今後は、そのWi-Fiを使い、スマートフォンやタブレットなどのデジタル機器を使った作品解説や音声ガイドなどご利用いただけるように進めていく予定です。

次回の展覧会案内

企画展

平山郁夫 仏教の来た道-後編-

2022年9月17日（土）～12月27日（火）

※会期中無休



平山郁夫シルクロード美術館
HIRAYAMA IKUO SILK ROAD MUSEUM

平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第27号 2022年4月発行

発行 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6

Tel 0551-32-0225

URL <http://www.silkroad-museum.jp>

